

R7年度 SDGs推進室 活動報告書

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
1	教育	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	国連大学長による特別講演の主催	国連大学長のチリツィ・マルワ氏による特別講演とパネルディスカッションを国際連携推進機構およびSDGs推進室が主催で行った。特別講演では、国際的なSDGsの推進に関する最新情報やAIを用いた活動の推進、今後の展望・課題について、マルワ学長の自らの経験やキャリアとともに示された。また、パネルディスカッションにおいては、本学の学生、教員と国連大学マルワ学長らによる活発な討議が行われ、今後の活動について貴重な意見が交わされた。	  	国連大学学長特別講演会
2	教育	佐藤 哲	SDGs推進室	マラウイからの留学生の屋久島調査	7月25日-8月1日および3月8日-15日にマラウイから愛媛大学大学院理工学研究科修士課程に留学しているTalandila Kasapilさんが研究フィールドである屋久島を訪問し、研究の戦略について地域の方々と議論し、また関係者の方々に研究の進捗状況について報告を行った	 	
3	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	グローバルリーダーとして持ち合わせるべきグローバル・マインドセットの在り方	今治西高校教職員研修（2025年11月28日）での講演。グローバルとローカルの視点を併せ持つリーダー育成のあり方について教職員向けに解説した。	 	
4	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	SDGsの概要と意義	地域イノベーター養成講座（2025年9月20日）での講演。SDGsの基本概念と地域イノベーションへの活用方法について、実践的な視点から解説した。	  	
5	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	新居浜南高校ライフスタディ成果発表会での講評	新居浜南高校（2026年1月28日）での講評。高校生のライフスタディ成果発表に対して専門的な視点からフィードバックを行い、探究学習の深化に貢献した。		
6	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	SDGs貢献人材として地球沸騰時代を生き抜く力を身につける！	新田高校特別講義（2025年4月28日）。高校生に向けてSDGsの理解を深め、気候変動時代を生き抜くための資質・能力について解説した。	 	
7	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	Beyond SDGs 2030	愛媛県立松山東高校課題研究（年間20回担当）。2030年以降を見据えたSDGsの発展的内容について、継続的な課題研究指導を行った。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
8	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	世界共通のゴール「SDGs」をヒントに地球沸騰時代を生き抜く	宇和高校での特別講義（2025年6月5日、10月23日、2026年2月5日の計3回）。農業高校の生徒に向けてSDGsと農業の関連性について解説した。	  	
9	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	砥部町環境学習会	砥部町広田小学校での環境学習会（2026年1月15日）。小学生に向けて地域の環境問題とSDGsについてわかりやすく伝え、環境意識の向上に貢献した。	  	
10	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	そろそろBeyond SDGs2030いまこそ目指そうグローカライザー！	愛媛県立松山東高等学校での特別講義（2025年5月1日）。SDGs2030以降を見据え、グローバルな視点で行動できる人材育成について解説した。	  	
11	教育	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	SDGsに見る平和と環境	附属高校高大連携事業「グローバルスタディーズ I 環境教育」（2025年10月29日）。SDGsの視点から平和と環境の関係性について解説した。	  	
12	教育	中井 俊樹	教育・学生 支援機構	大学院共通教育科目の導入	令和8年度から大学院共通教育科目を導入することになった。SDGs概論、インクルーシブ社会実現に向けて、学校と地域の連携による学びの支援などの13の授業科目を開講することにした。	 	
13	教育	仲道 雅輝	教育・学生 支援機構	次世代につなげるビーチ・クリーンプロジェクト	今年度は、ビーチの「石」をなくそう大作戦と題して、4回実施しました。ビーチ周辺のごみ拾いをするとともに天然の砂浜である土手内ビーチに堆積している石を除去し、持続可能なビーチの楽しみ方についても考えました。周辺の枯れた草木に、マイクロプラスチックをはじめとする漂着物が絡まって蓄積される様子が見られたため、手で引き抜いて取り除くなど、ゴミがたまりにくい環境にするなど、工夫しながら清掃活動を行った。	  	 たうんニュース2025年6月「ビーチの口石 全部なくそう大作戦！」
14	教育	鈴木 静	ジェンダー協働 推進センター	特別講義「ジェンダー平等に関する国際動向と日本の課題」	2025年6月19日、国際連合大学の白波瀬佐和子上級副学長を講師に迎え、学内で特別講義を行い、約160人が参加しました。白波瀬氏は、国際連合大学の設立経緯や役割、SDGsとの関わりについて紹介され、理系分野や政治・経済の意思決定層に女性が少ない現状の背景には、性別役割分業を前提とした制度や労働市場の構造があることに加え、日常の積み重ねによるアンコンシャス・バイアスが関係しており、すべての世代がその修正に取り組む必要があると話しました。	  	特別講義「ジェンダー平等に関する国際動向と日本の課題」を開催しました【6月19日(木)】

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)	
15	教育	鈴木 静	ジェンダー協働推進センター	女子中高生のためのロードマップtoサイエンス2025	2025年11月15日、女子中高生の理系進路選択を応援するイベント「女子中高生のためのロードマップtoサイエンス2025」を開催しました。当日は、女子中高生と保護者あわせて約40名が参加し、本学の理系女子学生チーム「サイエンスひめこ」が中心となって運営を担当しました。本学の女性卒業生の講演、研究室見学、女子大学生と女子中高生のグループワークなどを行いました。開始直後は、女子中高生は緊張していたものの理系への関心を示し、大学生に積極的に質問をしていました。終始、和やかな雰囲気の中でイベントは行われ、理系への関心を深める機会になりました。		女子中高生のためのロードマップtoサイエンス2025を開催しました【11月15日(土)】	
16	教育	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	「持続可能性科学」授業を担当	社会共創学部1年生（220名）必修科目「持続可能性科学」で、持続可能性の歴史的背景、概念の発展、幅広いセクターの背景、最先端の理論・議論・方法や学生のシナリオワークショップを担当した。		 <p>12/2024</p>	愛媛大学修学支援システム(持続可能性科学)
17	教育	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	持続可能性関連卒業研究指導	Multispecies Sustainability Laboratoryに所属する4年生3名が2025年度に以下のテーマの卒業研究で様々な側面より持続可能な社会の実現に貢献した：「シェアサイクルが生み出す「偶然的出会い」」、「環境税の受容性と税収活用のあり方に関する考察」、「都市緑地における防犯環境設計と人々の安全安心意識」		教育・指導・ゼミ - マルチスティクス・サステナビリティ・ラボラトリー	
18	教育	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	持続可能性関連の修士研究指導	Multispecies Sustainability Laboratoryに所属する修士学生3名が2025年度に以下のテーマの修士研究で様々な側面より持続可能な社会の実現に貢献した：「多元世界の持続可能な移行のガバナンス：屋久島自然世界遺産における価値観、未来とマルチスピーシーズの関係」、「夜間光衛星データを用いた光害の社会生態への影響評価」、「野良猫と人の「多元的共生」に向けたデザイン：愛媛県松山市清水地区の事例から」		教育・指導・ゼミ - マルチスティクス・サステナビリティ・ラボラトリー	
19	教育	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	「持続可能性理論」授業を担当	応用に集中しがちなSDGs関連活動の中、日本初の持続可能性の理論に焦点を与える科目を開講した（履修学生25名）。		 <p>愛媛大学修学支援システム(持続可能性理論)</p>	

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
20	研究	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	PFASの生物蓄積特性と生態リスク評価に係る研究	近年問題となっているPFASによる環境汚染に関連して、PFASの生物蓄積特性と生態リスク評価に係る研究を推進した。とくに魚類および野生鳥類に関する総合的な研究を推進し、生物組織試料を対象とした新たなPFASの微量一斉分析法を開発するとともに、多様な魚種や鳥種におけるPFASの蓄積特性についてその種間差の解析やばく露リスク評価を実施した。	  	
21	研究	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	インドネシアの農地土壌における残留農薬の実態調査	インドネシアでは、農業活動の発展に伴い多様な農薬が利用されているが、環境や農産物における残留が懸念されている。そこでインドネシアの研究者らと共同で、現行利用農薬成分約160成分の微量一斉分析法を開発し、ジョグジャカルタ地域の農地土壌や農産物に含まれる残留農薬の調査を行い、生態リスクや食品を介したヒトへのばく露リスクを評価した。	  	
22	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	SATREPSマラウイ統合資源管理プロジェクトにおける国際共同研究の進展	JST-JICAの地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) で、愛媛大学が研究代表機関となって実施している「マラウイ湖国立公園における統合自然資源管理に基づく持続可能な地域開発モデル構築プロジェクト (IntNRMSプロジェクト)」は、5年間の研究期間の最終年度となり、順調に研究活動が進展している。地域の人々が自ら多様な自然資源の持続可能な管理を実現する仕組みについて 研究が進んでいる。	  	IntNRMSプロジェクト
23	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	室蘭工業大学の内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」への参加	令和5年室蘭工業大学が内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」に採択され、3年目となり、この事業に主たる共同研究機関として参加し、「Society5.0時代の農業における「新たな『学び』×働き方」のショーケースの提示と実証」という研究テーマで共同研究を実施している。	  	憧れのまちへ × わくわく伸びる人づくりへ
24	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	31st Annual Conference of International Sustainable Development Research Society (ISDRS) における研究発表	科学・政策・経済・人文科学の分野の研究者などが一堂に会し、イノベーション・文化・生活様式・行動パターン・環境問題・国境を越えた問題に関して「持続可能性とその先」をテーマに、知見やアイデアを共有する国際研究会議「第31回International Sustainable Development Research Society (ISDRS)」が、ハンガリー・ブダペストにおいて7月8日から12日に開催された。この会議に参加し、SATREPSプロジェクトで推進してきた社会生態系の転換プロセスに関するレバレッジ・ポイント分析を発表した。持続可能性科学の最新の動向を収集し、世界の研究者とのネットワーク構築が進展した。	    	国際持続可能な開発研究学会
25	研究	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	モザンビーク共和国ナンブラ州における前眼部疾患の疫学的特徴と遠隔診断の有用性	小島祐依, 中山慎太郎, 清水映輔, 西村裕樹他, 小林修 (2025). 臨床眼科 79(4), 532-537. モザンビークにおける眼科疾患の疫学調査と遠隔診断システムの有用性を検証した研究論文。途上国の医療アクセス向上に貢献。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
26	研究	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	Epidemiological Characteristics of Ophthalmic Diseases in Mozambique	Kojima Y, Nakayama S他, Kobayashi O (2025). Investigative Ophthalmology & Visual Science, 66, 2046. 2025 ARVO Annual Meeting (Salt Lake City) にて発表。モザンビークにおける眼科 疾患の疫学的特徴を明らかにした国際共同研究。	  	
27	研究	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	Anterior Segment Findings from Community Outreach Screening in Timor-Leste Using the Smart Eye Camera	Fernando V他, Kobayashi O (2026). AJO International, 3, 100236. 東ティモールでのスマートアイカメラを用いた遠隔医療フイージビリティ 研究。途上国での医療技術活用を検証。	  	
28	研究	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	海の声を聴くアクセサリづくり～ 海洋プラスチックアクセサリ制作 を通じた環境意識醸成～	Hsu Mon Kyaw, 秋沢翊成, 西川三葉, 原涼花, 小林修 (2025). 日本 環境教育学会中四国支部研究会 (広島, 2025年6月21日) にて発表。 海洋プラスチック問題への意識啓発を目的とした環境教育実践研究。	  	
29	研究	鈴木 静	ジェンダー協働 推進センター	オンラインセミナー「多様な人材が 活躍する教育・研究環境の構築 に向けたSAKURA制度と東京農工 大学の挑戦」	12月9日 (火)、オンラインセミナー「多様な人材が活躍する教育・研究環境 の構築に向けたSAKURA制度と東京農工大学の挑戦」を開催し、本学の教 職員約70人が参加しました。本セミナーは、他大学における女性管理職登用 の実践事例を紹介し、女性教員の活躍推進や多様な人材が力を発揮できる 組織づくりについて、理解を深めることを目的として開催したものです。東京農工 大学の天竺桂弘子副学長 (入試及びダイバーシティ担当) をお迎えし、「多 様な人材が活躍する教育・研究環境の構築に向けたSAKURA制度と東京農 工大学の挑戦」と題してご講演いただきました。		オンラインセミナー「多様な人材が活躍する教育・研究環境の構築に向けたSAKURA制度と東京農工大学の挑戦」を開催しました【12月9日(火)】
30	研究	上野 秀人	農学研究科	安定した食料生産と地球温暖化 防止のための農業技術開発研 究	ダイズの高収量安定生産技術として、シロクロバーやライムギ、ヘアリーベッチと いう緑肥を秋冬作に栽培し、その後、不耕起栽培する方法を検討した。これに より土壌耕起作業を省力化し、地球温暖化ガスである亜酸化窒素 (N ₂ O) ガス排出量が減少し、大気中のCO ₂ を土壌炭素として貯留することを明らかに した。収量は通常栽培と同等かそれ以上となった。	   	
31	研究	ルプレイト クリストフ 笠松 浩樹 島上 宗子 徳岡 良則 竹下 浩子 向 平和 ヒディング	社会共創学部 教育学部 国際連携 推進機構	愛大・マルチスピーシーズ・キャン パス の全体運営	様々な教職員の支援をいただきながら、「すべてのいきものが共に創る、すべて のいきものが共生できる」というキャッチフレーズで持続可能なキャンパスの実現を 目指す「マルチスピーシーズ・キャンパス」プロジェクトを継続し運営した。	   	愛媛大学マルチスピーシーズ・キャンパス - Multispecies Sustainability Laboratory

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
32	研究	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	都市自然再生の政策デザインに関するイベント	オランダLelystad市職員で自然プロジェクトリーダーのHannah Grijns氏に「都市を考える人の経路：マドリードでマルチスピーシーズ都市の研究から、都市自然のための都市政策デザイン実践へ」についてセミナーを行っていただいた。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう	
33	研究	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	マルチスピーシーズ・キャンパス：ビオトープづくり	キャンパスの生物多様性や自然再生にむけて、ビオトープづくりを学部・大学院・留学生と一緒に城北キャンパス・樽味キャンパスで行った。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	
34	研究	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	日本造園学会100周年記念全国大会の特別イベントパネルディスカッション参加	「ランドスケープを再考する：都市・地域を変えるためにすべきこと」のパネルディスカッションとして、造園学会の重要なイベントで議論を行った。	11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	
35	研究	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	気象コモンズ—新しい気象とのつきあい方	地域コミュニティを中心とした民主的・ボトムアップ的なアプローチとして、「気象コモンズ」という新しい考え方をnpj Climate Action国際学術誌で提起した。	11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	
36	研究	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	マルチスピーシーズキャンパス：愛媛大学のキャンパスデザイン案の国際公開	愛媛大学のマルチスピーシーズ・キャンパスのデザイン案をランドスケープデザイナーと一緒に共著論文として「Cities And The Environment」国際学術誌に公開した。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	








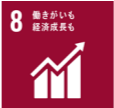



No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
37	社会貢献	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	内子町環境基本計画策定に関 わる市民会議アドバイザー	内子町の環境基本計画策定に関わる市民会議のアドバイザーとして、環境保全およびSDGsに係る専門的知見をもとに議論を支援した。地域の自然資源保全、循環型社会の形成、気候変動対策などの視点から助言を行い、住民参加型の計画づくりと合意形成に貢献した。科学的根拠に基づく政策検討を促し、地域特性を踏まえた持続可能な地域づくりに寄与した。		 環境基本計画アクションプラン策定市民会議
38	社会貢献	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	西条市SDGs推進協議会におけ る会長	西条市は、令和3年度にSDGs未来都市及び自治体モデル事業として選定され、SDGs推進協議会を立ち上げた。本協議会は、人口減少及び少子高齢化が急速に進展する中、多様な関係主体が参画して未来に向けた地域経済の活性を促すとともに、相互に連携して「持続可能な西条市2050」の実現に向けた各種課題の解決を図るものである。令和5年2月に任意団体から一般社団法人化した。昨年度に引き続き協議会の代表理事・会長として、西条市における上記の活動を推進した。		西条市SDGs推進協議会
39	社会貢献	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	持続可能な道後温泉協議会にお ける委員	持続可能な道後温泉協議会は、道後温泉地域全体のSDGsの取り組みを推進する「持続可能な道後温泉協議会」で、愛媛大学が地元団体や行政が経費を負担しながら連携し、ひみつジャナイ基地を活用しながら、持続可能な道後温泉に向けて取り組むものである。本協議会の委員として活動した。		持続可能な道後温泉協議会
40	社会貢献	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	愛媛県環境審議会における委 員	愛媛県環境審議会の委員として参画し、愛媛県の環境の保全や自然環境の保全に関する重要事項等について調査審議を行った。とくに本年度は、令和8年度公共用水域及び地下水の水質測定計画およびえひめ循環型社会推進計画の策定にあたり専門的な見地から様々な意見、提言を行った。		第四次えひめ環境基本計画
41	社会貢献	高橋 真	SDGs推進室 農学研究科	国連大学SDG大学連携プラット フォームへの参加活動	本プラットフォームは、国連大学サステナビリティ高等研究所が主体となって、SDGsに積極的に取り組む意欲ある大学と連携し、国際経済社会の動向を踏まえた大学の取組みを総合的に強化し、国内外に発信するための基盤づくりを目指している。愛媛大学SDGs推進室が主体となって本プラットフォームに参加し、他大学の活動情報について調査するとともに、大学間連携活動への参画や、愛媛大学におけるSDGs関連活動の情報発信を行った。		国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)
42	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	「一般財団法人サンクゼール財 団」の 助成事業の選考委員	「一般財団法人サンクゼール財団」助成事業の選考委員。子どもや生活困窮者等の貧困対策、発展途上国・紛争地帯・難民等への支援と、個人や団体への助成事業を行う財団で、国内外のさまざまな課題への貢献が期待される。		サンクゼール財団

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
43	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	日本ユネスコ国内委員会科学小委員会調査委員「人間と生物圏(M A B)計画」事業	日本におけるユネスコエコパーク(生物圏保存地域)の登録と活用取組を支援する「日本ユネスコ国内委員会 科学小委員会人間と生物圏(M A B)計画分科会」の調査委員を務めている。	  	
44	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画(実行計画)策定委員会	西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画(実行計画)策定委員会委員を務めている。	 	
45	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	室蘭工業大学「国際シンポジウム2025・地域イノベーターたちの実践に学ぶ」	伊達市におけるSIPプロジェクト(第3期「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」代表:山中真也)による国際シンポジウム「地域イノベーターたちの実践に学ぶ」に参加し、伊達市とマラウイのイノベーターの交流を促進した。SATREPSプロジェクトでマラウイから2名を招へいし、持続可能な農業・観光のつながりなどの取り組みについて紹介した。	  	憧れのまちへ × わくわく伸びる人づくりへ
46	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	美しい地球に暮らし続けたい!今こそできる大切なこと	八幡浜児童クラブ(2025年5月10日)での講演。子どもたちに向けて地球環境保全の重要性とSDGsの基礎を伝え、日常でできる環境配慮行動について啓発した。	  	
47	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	国際連合と多国間主義~世界のつながりと未来~	令和7年度第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会(2025年8月9日)での講演。国連の役割と多国間協調の重要性について解説し、グローバル課題への理解を深めた。	 	
48	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	テクノロジー×経験が生む持続可能な技術職員組織の未来	技術職員組織マネジメント研究会(2025年8月22日)での講演。AIなどの新技術と熟練技術者の経験を融合させた持続可能な組織運営について提言した。	  	
49	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	SDGsの取り組みを充実させられるかも?しれない生成AIの活用	新居浜市SDGs活用セミナー(2025年8月27日)での講演。生成AIをSDGs推進に活用する方法について、具体的な事例を交えて解説した。	  	
50	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	雲間に差す光をつかむ~多層危機時代の多国間協調・レジリエンス・リジェネラティブ思考~	坂の上の雲大学連携講座(2025年9月7日)での講演。複合的な危機に直面する現代社会において、レジリエンスと再生的思考の重要性を説いた。	   	

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
51	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	共感と表現の力で平和を紡ぐー 教育心理学と演劇の交差点ー	演劇集団ふらっと（2025年9月13日）での講演。教育心理学の視点から、演劇を通じた共感力の育成と平和構築への貢献について解説した。	 	
52	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	グローバルリスク時代を生き抜く教 養	生涯学習センター・コミュニティ・カレッジ（2025年10月26日）での講演。気候変動や地政学リスクなどグローバルリスクに対応するための知識と教養について解説した。	  	
53	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	やさしさで未来をつくる～お接待 の心とSDGsで考える松山・愛媛 の未来	世界こども未来会議 in EHIME MATSUYAMA（2026年2月23日）での講演。四国遍路の「お接待」文化とSDGsを結びつけ、地域の未来像について子どもたちと考えた。	  	
54	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	SDGsと多文化共生から考える 地域づくり	東温市役所SDGs研修（2026年3月17日、3月19日）での講演。多文化共生の視点からSDGsを捉え、持続可能な地域づくりについて職員研修を実施した。	  	
55	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	演習林へ行って、森と木を知ろう	松山ロータリークラブ第23回サマー・スクール（2025年8月2日）での体験講座。子どもたちに森林の役割と木材利用の重要性を体験的に伝え、環境教育を実践した。	  	
56	社会貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進 機構	愛媛銀行主催『ひめ銀ecHoの 森』森林体験講座	愛媛銀行主催の森林体験講座（松山市、2025年11月2日）。企業と連携した環境教育活動として、森林の生態系と環境保全の重要性について体験的に伝えた。	   	
57	社会貢献	鈴木静	ジェンダー協働 推進センター	「サイエンスひめこ塾2025」	2025年8月27日に「サイエンスひめこ塾2025」を開催し、学内で小学生（中高学年）29人が参加しました。本学理系女子学生のグループ「サイエンスひめこ」が、科学的な視点を取り入れた実験を指導し、小学生たちが試行錯誤しながら取り組みました。うまくいったときには歓声が上がリ、思い通りに行かないときも工夫しながら取り組む様子が見られ、終始にぎやかで、笑顔があふれました。	 	「サイエンスひめこ塾2025」を開催しました(2025年8月27日(水))

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
58	社会貢献	和田 寿博	法文学部 (兼) 地域協働センター中予	子ども食堂の理解と食の提供	和田教授が担当する法文学部専門科目「法政専門演習」では地域振興・交流人口などを検討した。その一環として次の地域協働を行った。松山市内の柑橘農家の見学と収穫活動に協力、子ども食堂の見学と収穫した柑橘の提供、市内行事において子ども食堂の関係者に食を提供。		
59	社会貢献	堀 利栄	理学部	日本学術会議第三部ジェンダーダイバーシティ委員会活動	日本学術会議第三部（理工系）ジェンダーダイバーシティ委員会の委員としてGS10のフォローアップの為に報告書の作成を行なった。		
60	社会貢献	松村 暢彦	社会共創学部	のむら復興まちづくりデザインワークショップ	平成30年7月豪雨によって大きな被害を受けた西予市野村地区における災害復興まちづくりについて、以下の項目をテーマとしたワークショップの企画の立案、運営を行った。 ・どすこいパークの広場のマネジメント（広場の使われ方の振り返りと計画） ・どすこいパークが野村地区の核となるために（野村地区の思い出集めと共有） ・多様な主体による復興まちづくり活動の実践		
61	社会貢献	ルプレイト クリストフ	社会共創学部	松山東高校での講演「人新世を生きる恐怖と希望」	2025年も、松山東高等学校の生徒360名を対象に、私たちが直面する様々な持続可能性関連の課題を紹介し、個人だけでなく連携し行動を起こすことでどのように課題を解決できる方法について講演した。		<p>人新世を生きる恐怖と希望</p>
62	社会貢献	徳岡 良則	社会共創学部	食に関わる野生植物の観察と試食	食の安全保障や伝統的な地域の資源利用の伝承の観点から、愛媛県の低地部に広く見られる食用あるいは飲用に活用できる植物の観察と試食会を市民を対象に実施した。幅広い年齢層の市民の参加があり、春の野草を目と舌で楽しむことができた。本活動を通じて、身近な自然や持続可能な食について考える機会を提供した。		
63	社会貢献	徳岡 良則	社会共創学部	身近な植物の観察方法を学ぶ	広い年代の市民を対象に道後公園にて、春の草花や園内に植栽された樹木の種類や生態的特徴について解説を行った。本活動を通じて、各市民の身近な自然を観察するきっかけを提供を出来た。		

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
64	社会貢献	徳岡 良則	社会共創学部	小中学校校内の身近な植物を楽しむ	篠山小中学校に通う児童、学生を対象に、校内に植栽された樹木や野草について、種類や生態を解説し、身近な自然への関心を醸成する機会とした。		
65	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	新居浜・西条経済研究会2025年6月例会で講演	新居浜・西条経済研究会が開催する2025年6月例会において、「人口減少時代の構造転換に備える～地域動向の読み解きと新居浜・西条圏域の展望」と題して講演を行った。	  	
66	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	第8期・第9期社会構想大学院大学・地域プロジェクトマネージャー養成課程で講義	急速な人口減少・少子高齢化社会に突入する中、より戦略的な視点から地域の課題を捉えて地域創生の実現に導く「地域プロジェクトマネージャー」を育成することを目的に、同課程において地域創生とEBPM①②の講義を担当した。	  	
67	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	愛媛新聞創刊150周年記念企画モデレーター	愛媛新聞社が創刊150周年記念企画として実施した「人口減少の中で描く持続可能な愛媛～モノづくり×人づくり、そして観光まちづくり」で全体のモデレーターを務めた。	   	
68	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	小松高等学校で地域の課題発見に関する講義を担当	小松高等学校で「課題への向き合い方を考える」と題し、地域の課題発見に関する講義を担当した。	  	
69	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	宇和島東高等学校で地域の課題発見に関する基調講演を担当	宇和島東高等学校の令和7年度SSH講演会・創立記念講演会に際し、「まちの未来は君の発想から生まれる～地域課題を探求する力を育てよう」と題して基調講演を担当した。	  	
70	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	新居浜市高校生政策アイデアコンテスト審査員	新居浜市が実施する新居浜市高校生政策アイデアコンテストにおいて審査員を担当した。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
71	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム(南予)で人口減少とまちづくりのあり方について講義	愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム(南予)で「地域別人口推計をまちづくりに活かす」と題して講義を行った。	  	
72	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム2025で官民共創と人材育成の視点から講演	スマート社会産官学民協働まちづくりフォーラム2025で「壁を越える人材をどう育てるか～官民共創とプロジェクトマネジメントの視点から」と題して講演を行った。	   	
73	社会貢献	大久保 武	大学院地域レジリエンス学環	伊予銀行・愛媛県主催官民共創セミナー モデレーター	伊予銀行・愛媛県主催官民共創セミナー～官と民の境界を越えて、共に創る地域の未来～でモデレーターを務めた。	   	

No.	活動内容	研究者氏名	所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
74	国際貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム (SATREPS) 日本とマラウイの相互交流	「マラウイ統合資源管理プロジェクト」において、マラウイと日本の間の研究者の交流が継続している。日本からは愛媛大学、東京農業大学、室蘭工業大学、龍谷大学、佐賀大学、横浜国立大学、東京科学大学から延べ19名の研究者がマラウイを訪問し、調査を行った。マラウイからは3名が短期共同研究員として東京農業大学で共同研究を行った。また2名が東京大学、鹿児島大学の博士後期課程、1名が愛媛大学の博士前期課程で研究をしている。	  	IntNRMSプロジェクト
75	国際貢献	小林 修	SDGs推進室 国際連携推進機構	What can we learn from The legacy of Sumitomo Besshi Copper Mine	JICA四国別子銅山地域理解プログラム（2025年8月20日）での英語講演。住友別子銅山の持続可能な開発の歴史から、資源開発と環境保全の両立について国際研修員に伝えた。	   	
76	国際貢献	菅原 卓也	農学研究科	SDGsに関連した講演	インドネシアのジェンバー大学主催のSDGsに関連した、持続可能な社会構築に向けた食品科学領域に関するセミナーで、講師を務めた。講演タイトルは、「Innovation in local food resources: Sustainable solutions for global food security and climate resilience. (地域食料資源におけるイノベーション：世界の食料安全保障と気候変動へのレジリエンスのための持続可能な解決策)」。	 	